

林業作業士
川合恵吾さん
大屋町



高所での作業は息のつかない緊張の連続

但馬人なら誰もがもつ、幼い頃に木登りをして遊んだ記憶。大屋町夏梅の川合恵吾さんは、その木登りを仕事にする数少ない職人のひとり。クレーンなどの大型機械が入れない場所でも、ロープと足器具だけを使って木に登る特殊な技術を使い、危険木を伐採している。命綱はなし。ロープに体をあずけただけの状態でチェーンソーを扱い、下から順に一本ずつ枝を切つてはワイヤーで木を降ろしていく。常に危険と隣り合わせの厳しい仕事だ。それでもお客さんの感謝の声にやりがいを感じ、やめようと思つたことはないという。

そんな大自然を相手に奮闘する川合さんは、大阪・十三出身の都会

大阪から | ターン 伝統の技を継承する 大屋町の木登り職人

育ち。休日にはよく但馬へバイクを走らせていました。大自然での暮らしにずっと憧れていましたね」

平成5年、経営していた運送業の廃業を機に、「ターン」説明会で知つた大屋町の木材会社に就職した。

配属先は住宅用の木材を伐採する山林部。そこで、出会うのが八鹿町の木登り職人、飯野高司さんだ。ロープと足器具だけで木に登る姿に、初めは恐ろしくてやる気とは思わなかったというが、次第に興味をひかれ、ひとつひとつの動きを注意深く観察するようになっていった。

そんな時、飯野さんが交通事故で足を骨折。かわりの職人がいない中、

川合さんが手を挙げた。見よう見まねでやってみると、これが案外うまくいった。「7年間ずっと下で見ていたのに、自分にもできるような気がしました。それでも、最初は恐くて緊張しましたよ」と語る川合さん。

去年、山林部の廃止に伴い、独立して「ランバージャック」を設立した。ようやく会社も軌道に乗り始めてきたが、まだまだこの仕事に対する認知度は低いとのこと。

「墓地など機械が入れず、切りたくても切れない危険木は多いと思うんですが、需要は少ないです。もっとこの技術を知って欲しいですね」

また、最近では阪神間を中心に、松食い虫にやられた枯れ松を伐採する仕事も増えてきている。

「松食い虫は次々と木をダメにする山の病気。但馬の山でも、枯れ松が目立ってきました。今後は、自然を守ることに一役買えたらと考えています」と話す。

モーターはお客さんの立場に立つた仕事をするように心がけること。川合さんは今日も少し高い場所から但馬の自然を見つめ続けている。

写真やイラストなど、フルカラー印刷でお客さまの大切な資料を美しく印刷いたします。

街を彩る。

さまざまなイメージを的確に伝える多彩な印刷。今、街がメディアに変わる。

早い印刷スピードでお客さまに

Quick Quality Cost

岩見印刷株式会社

【本社・伊比呂アル・マーケティング事業部】
兵庫県姫路市大屋町土屋27-1 TEL.0790-42-1200 (F)

【ホームページ】http://www02.nknsai.ne.jp/rocksee/

【E-mail】team@rocksee.com.nknsai.ne.jp

【姫路支社】TEL.0793-23-6002 (F) 【神戸支社】TEL.078-294-6600

【大阪支社】TEL.075-663-2377

宮神楽

尾張の石工から伝えられた
静かで荘厳な獅子の舞い
五穀豊穡の感謝を込める

ゆったりと荘厳に舞う、和田山町宮区の宮神楽は、毎年10月第3日曜日の秋祭りの季節に行われている。宮神楽の由来は、1640年代の江戸時代初期、宮区の田明寺の石垣築造の際に、尾張(愛知県)からやってきた石工職人によって、伝授されたものといわれている。

宮神楽は、静かに神前に奉納する質素な演技が特徴のひとつ。私たちが一般的によく目にする、にぎやかに飛び跳ねる勇壮な神楽獅子舞とは一線を画している。

祭り当日は、まず宮地区の小学生による「練り込み踊」で幕を開ける。揃いのほっぴに鉢巻、たすき掛けの衣裳に身をまとい、笛や太鼓、伊勢音頭のお囃子に合わせて、右手に御幣、左手に扇子をかざしながら境内を練り踊る。

「練り込み踊」が終わると、「こがらいよいよ、神楽獅子舞」が披露される。舞いには、「幕切り」から「昇殿の舞」まで7種類あり、約3時間がけて踊られていく。順を追って舞いの難易度が高くなる構成となっており、それ故、最後の舞いになるほど、ペタランが努めることが多い。

獅子の舞いには、獅子頭とその胴体を表す覆布の中で、2人の演者が手を広げて布をささえながら、素朴に舞い納める三頭舞や、爽やかな鈴の音を鳴らしながら、女性らしい舞いをみせる一頭舞と様々。舞い手が多いときには、2組の獅子に分かれて、組み合わせを行うこともある。

7種類の舞いの中でも特に目を引くのが、獅子と天狗が相対する4番目の「花掛り」の舞い。ややおどけた

仕草で天狗が獅子に挑みかけ、最後はよろけながら退場していく場面は観客の笑いを誘っている。

宮神楽が奉納される石部神社の境内には、清らかな湧き水があふれ出る「神池」がある。この水は、昔から農業用水や生活用水として重用されてきた。池の周辺は村人の憩いの場であり、日々自然の恵みに感謝していたことだろう。宮神楽もそんな感謝の気持ちを込めて、舞い継がれてきた村の宝。そこには今も昔も変わらない、人々の思いが込められている。

協力：宮区長 夜久優さん
同区文化部長 衣川勝信さん



和田山町宮区の「宮神楽」は、今年は10月19日(日)に区内の石部神社で奉納される。当日は、出店が出たりして、にぎやかな祭りとなる。かつての祭礼行事では、宮氏子、久和田氏子それぞれに神輿が備えられ巡行していたが、祭具の破損などで現在は廃止されている。地区内では、それに替わり、子供神輿を造って巡行している

出店とは不思議なもので
ひとつひとつの出店を大切に...

まものことなら
まものサハン けいたに
●着付け教室 ●まものサハン教室
●まものトータルコーディネート

星岡市福田1番7-1 電話 24-0239
フリーダイヤル 0120-529-008

